

## 復職に向けたリハビリテーション

医療法人社団永生会永生クリニックリハビリテーション科

言語聴覚士 ムラマツ ミヅキ ○ 邨松美都樹 エムラシユンペイ 江村俊平

【はじめに】脳出血のために、仮名の読解・漢字の書字に困難を訴えた症例の復職に関わる機会を得たため、報告する。【症例】33歳、右手利き、女性。職業：医師（母親と皮膚科開業）主訴：文字の読み書きができない。診断名：脳出血。現病歴：X年8月、妊娠（39週4日）陣痛発来で産婦人科に入院。その後意識障害にてA病院に転送され、脳出血の診断を受け、開頭血腫除去術施行。同年9月、当クリニックを外来受診。OT・STを開始。神経学的所見：右同名半盲。神経心理学的所見：失読失書。画像所見：MRIにて、左後頭葉から側頭葉後方、頭頂葉にかけて高吸収域を認める。【評価】標準失語症検査ではほぼ減点なし。音声言語面：発話面・聴理解面ともに著明な低下を認めない。文字言語：（音読）検査上では減点はないが、仮名音読時に空書にてなぞり読みが観察され、音読に時間を要する。特に漢字に比し仮名では音読所要時間が長い。（読解）読解はほぼ聴理解に対応し良好だが、音読をしないと困難な状態であり、仮名を含む文の読解には時間を要し、制限時間内に回答できない場面があった。育児書や子供のための絵本が読みにくい、レシピを見ながらの調理が難しい。（書字）仮名の書字は良好。漢字は、小学校高学年では想起できないものが多い。（知能）粗大な低下は認めない（RCPM34/36、コース立方体 IQ122）。（視知覚）視知覚の基本的機能、色彩認知、構成等に低下は認めない。【経過】読みに関しては仮名文字の処理速度を上げるために仮名文章の音読・読解課題を行った。書字に関しては小4レベルから漢字練習、仮名文章の漢字変換を行った。その結果、読解速度が向上し、育児書や絵本を読む際の困難感が減少したり、携帯でレシピを見ながらの調理が可能となった。書字は以前よりも多くの漢字を用いて日記が書けるようになった等、文字言語を用いる活動場面の改善が見られた。復職に対しては、カルテ等書類の読解・記入に困難が生じると推察されたため、読解は事前に書類に目を通しておくこと、記入はPC入力にて行うことで対処法を検討した。本人も復職に要する能力を自主的に模索する様子が見られ、診察のシミュレーションを行ったり、学会に参加するなど、自主性に富んだプログラムが実施可能であった。【まとめ】仮名の読解障害・漢字の書字障害を呈した症例に対して、言語機能訓練、代償手段の導入を行った。言語機能の改善が認められたこと、復職に関して代償手段などを確立したことにより、来春より復職予定となった。